

第27期東京都自然環境保全審議会第2回温泉部会

日 時 令和7年12月19日(金)午後1時30分～

会 場 都庁第二本庁舎31階特別会議室23

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

審議事項

諮問第500号 渋谷区笹塚一丁目の温泉動力の装置について

3 閉 会

【配付資料】

資料 1 第 27 期東京都自然環境保全審議会 温泉部会委員名簿

諮問第 500 号 渋谷区笹塚一丁目の温泉動力の装置について

資料 2－1 概要版

資料 2－2 事業者用資料

資料 2－3 許可基準の適合状況

参考資料 1 温泉に係る地盤沈下防止対策及び適正利用について

参考資料 2 温泉動力の装置の許可に係る審査基準

参考資料 3 温泉掘削・動力許可に関わる井戸・湧水の取扱いについて

参考資料 4 東京都における温泉の許可基準に係る指定地域

第27期東京都自然環境保全審議会 温泉部会委員名簿

(敬称略)

	氏 名	役 職 名 等
委 員 ○	板 寺 一 洋	神奈川県温泉地学研究所専門研究員
	木 川 田 喜 一	上智大学教授
	窪 田 ひ ろ み	(一財)電力中央研究所サステナブルシステム 研究本部上席研究員
	布 山 裕 一	流通経済大学講師
	安 川 香 澄	(独)エネルギー・金属鉱物資源機構特命参与
臨 時 委 員	伊 東 正 博	東京都公衆浴場業生活衛生同業組合常務理事
	益 子 保	益子温泉調査事務所代表

○：部会長

諮問第 500 号

渋谷区笹塚一丁目の温泉動力の装置について

- | | | |
|---|-----|-------------|
| 1 | 申請者 | 櫻護謨株式会社 |
| 2 | 目的 | 温浴施設へ供給（浴用） |
| 3 | 申請地 | 渋谷区笹塚地内 |
| 4 | 地目 | 宅地 |

□ 掘削工事の経緯

令和 6 年 1 月 11 日 掘削許可処分
 令和 7 年 8 月 22 日 掘削工事完了

□ 温泉の現況

深 度	1,207 メートル
静 水 位	GL-23.52 メートル
動 水 位	GL-43.44 メートル（連続揚湯試験実施時）
泉 温	30.3 ℃
泉 質	ナトリウム－塩化物・炭酸水素塩温泉

□ 申請する動力

出 力	3.7 キロワット
吐出口断面積	13.58 平方センチメートル
吐 出 量	100 リットル／分（全揚程 53 メートル）

□ 揚湯量 38.14 立方メートル／日

□ 申請地周辺の状況等（図 1 ～ 3 及び写真①～③）

土 地	申請者所有
周辺概況	京王線笹塚駅から東に約 200m。周辺は住宅街や商業施設等が立地する。
既存源泉等（半径 1000m）	あり（図 2 参照）
水道水源井戸等（半径 1000m）	なし
湧 水（半径 1000m）	あり（図 2 参照）

□ 可燃性天然ガス対策 動力の装置後、温泉の採取の許可申請予定

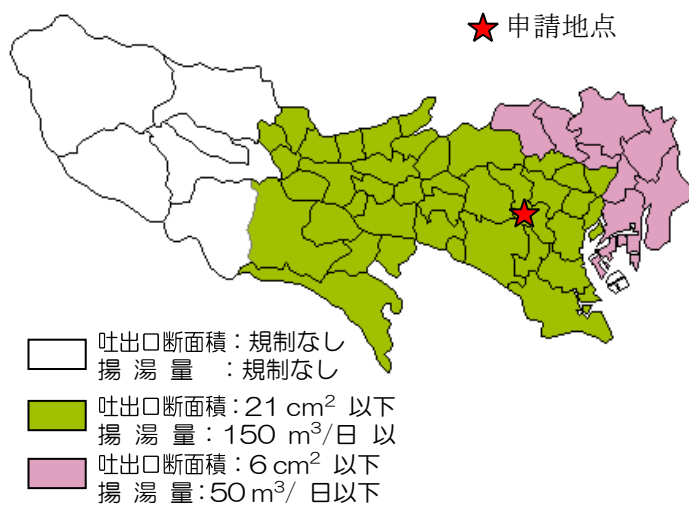


図1 申請地（広域図）

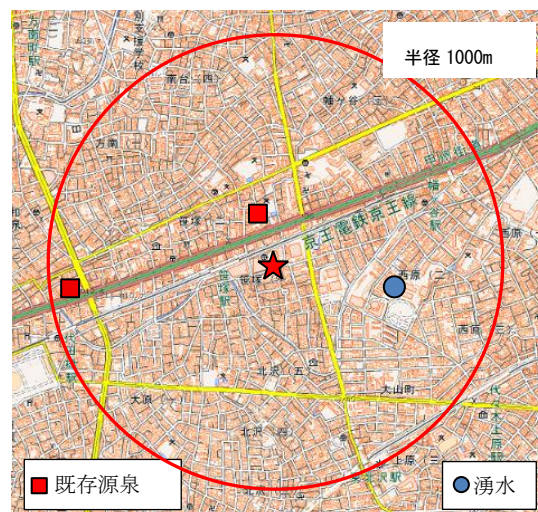


図2 周囲 1000m 付近の様子



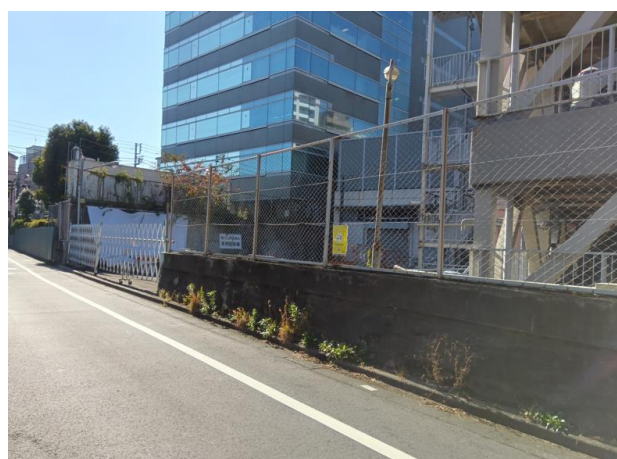
図3 詳細図（撮影方向）



①申請地点



②申請地点周辺



③申請地点周辺

渋谷区笹塚一丁目の温泉動力の装置について (事業者説明資料)

2. 掘削中の周辺状況

掘削工事中に近隣よりの苦情はなし

温泉掘削工事中の揚湯試験時に、同一敷地内の温泉井より約 6.6mに位置する申請者所有の災害用・雑用水(散水等)井戸(深度 100m)の常時水位確認 -8.7m

令和 6 年度の記録～常時水位(自然水位)-8.0m～-9.1m

付近の湧水に対しての情報提供等

渋谷区西原 2-49 国際協力機構東京国際センターの湧水

2025 年 11 月 18 日に同センターを訪問し、情報提供済み。

同センターからは特段の意見はなかった。

3. モニタリング計画

水位は以下添付の水位計により測定

上記の数値確認は温泉動力装置制御盤内に表示器設置予定

自動観測あり・自動記録 週 1 回記録（常時水位及び最低水位）

水量は以下添付の量水器により測定（ガス分離設備の出口に設置）

上記の数値確認は量水器に表示（瞬時流量・積算流量等）されたものを記録

自動観測あり・自動記録 毎日記録

水温測定 揚湯時に可燃性ガス分離設備への流入前の温度計にて測定

自動観測あり・自動記録 毎日記録

電気伝導率・pH の測定

計測機器にて手動測定 月 1 回記録

水位センサー

●圧力式レベルセンサー MLS300A・G

■センサー仕様			
センサー形式	ゲージ圧方式・絶対圧方式	ケーブル	CV (ビニルシース)・架橋PE
レンジ (Bar)	1・5・10・20・35・70		ETFE (フッ素樹脂・ペントチューブ入り)
精 度	スパン ±0.15%	材 質	受圧部 SUS316
周囲温度	0 ~ 65 ℃ (標準型)		筐 体 SUS316・SUS304
電 源	DC 24 V	測定流体	pH 7~8.5 NaCl 8.000ppm以下

■表示器仕様			
表 示	5桁LED表示	オプション	リレー出力 (Hi・Lo 接点)
センサー電源	DC24V (80mA)		リニア出力 (4~20mA)
表示器電源	AC100V・AC200V		避雷器 (アレスター)
本体質量	約850g		データ記録 (ロガー)

MLSレベルセンサーは、測定対象レベルに応じて大気開放型 (Gauge) または絶対圧力型 (Absolute) が選択可能です。

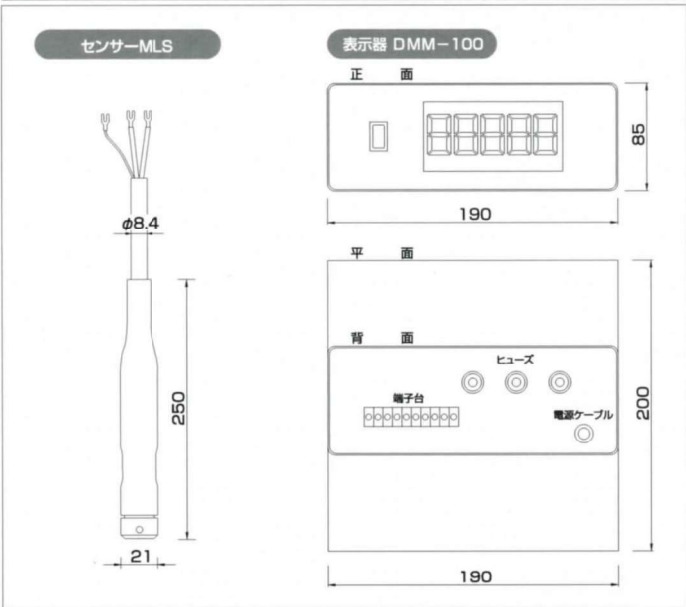
大気開放型センサーは、0から50mまでの高精度の水位測定にお勧めいたします。大気開放型センサーケーブルは、ペントチューブ挿入型になりセンサー内部の圧力と大気圧を常時補正し高精度の測定が行えます。ペントチューブの大気開放による湿気対策として、バルン型ペロースをペントチューブ端末に接続することにより、センサーおよびチューブ内の結露を防止します。

絶対圧力型センサーは0から350m (レンジ選択) までの水位測定が可能で、深井戸の水位測定には、最適です。ケーブルはCVまたは架橋PEから選択ができます。

※CVケーブルは、温泉 (単純泉65℃まで) 対応可能、ETFEケーブルは高濃度温泉および油に対応します。

センサー圧力感知部は、一般的な水質では、SUS316の受圧面に対応いたしますが、腐食性または高濃度の温泉では圧力感知部にフッ素樹脂ダイアフラムをオプションで設置できます。

■外形寸法図



●製造・販売
株式会社 アサヒ機器
〒065-0017 札幌市東区北17条東14丁目1番11号
TEL 011-704-5153 FAX 011-721-0312

圧力式レベルセンサー

MLS300A・G

用 途

- 深井戸・貯水槽の水位測定
- ポンプなどの自動制御

特 徴

- 測定レンジ 最大700mまで可能
- 信号出力4~20mA(OP 1~5V)
- センサーは 絶対圧・ゲージ圧、選択可能
- ケーブルは、CV・架橋PE・ETFE選択可能
(ゲージ圧は、ベントチューブ組込ケーブル)



コンパクト

- センサー外形
φ21mm

表示器



株式会社 アサヒ機器

流量計

仕様

流量計本体仕様

標準タイプ CE	型式	フランジ規格	JIS10K	—	—	—	FD-UH50H	FD-UH80H	FD-UH100H
			JIS20K	FD-UH15G	FD-UH25G	FD-UH40G	FD-UH50G	—	—
	口径			15A	25A	40A	50A	80A	100A
	質量			約4.9kg	約6.4kg	約8.0kg	約9.0kg	約11.7kg	約13.9kg
防爆タイプ	型式	フランジ規格	JIS10K	—	—	—	FD-UB50H	FD-UH80H	FD-UH100H
			JIS20K	FD-UB15G	FD-UB25G	FD-UB40G	FD-UB50G	—	—
	口径			15A	25A	40A	50A	80A	100A
	防爆構造					Exd II BT (H 8 年版)			
サニタリタイプ	質量			約4.9kg	約6.4kg	約8.0kg	約9.0kg	約11.7kg	約13.9kg
	型式			FD-US15	FD-US25	FD-US40	FD-US50	FD-US80	FD-US100
	接続プロセス	ISO準拠20°		10A	—	—	—	—	—
		IDF準拠20°		—	1S	1.5S	2S	3S	4S
	質量			約6.0kg	約9.5kg	約12.0kg	約13.5kg	約19.5kg	約23.5kg
測定範囲 ^{※2}				設定レンジ(スパン)上限値の3~100%					
設定レンジ(スパン)下限値(流速V _L [m/s])				0 固定					
設定レンジ(スパン)上限値の設定可能範囲(流速V _H [m/s])				0.3~10					
流量換算計算式				Q=V/K <Q:流量[m ³ /h], V:流速[m/s], K:流量換算係数>					
換算係数K				K=1/3600×(4/πD ²) <D:通水部公称口径[m]>					
				1.572	0.5659	0.221	0.1415	0.05526	0.03537
設定レンジ(スパン)上限値の最大値 (流速V _F :10[m/s])	流量Q[L/min]			106.03	294.52	753.98	1178.1	3015.9	4712.4
	流量Q[m ³ /h]			6.3617	17.672	45.239	70.688	180.95	282.75
設定レンジ(スパン)上限値の初期値	流速V[m/s]			3.7725	3.395	3.978	4.244	3.316	4.244
	流量Q[L/min]			40	100	300	500	1000	2000
測定精度 ^{※3} (表示) (設定流速 V _S [m/s])	1.0≦V _S ≦10	測定流速≧V _S ×50%	表示値の±1%	表示値の±0.5%					
		測定流速≦V _S ×50%		V _S の±0.5%					
	0.3≦V _S ≦1.0	測定流速≧V _S ×50%		表示値の±0.5%					
		測定流速≦V _S ×50%		V _S の±(0.4+(0.5/V _S))%					
表示可能範囲				設定レンジ(スパン)と同じ					
ローフローカット(ゼロカット)				可変(初期値:設定レンジ(スパン)の3%)					
使用可能流体導電率				5μS/cm以上					
使用流体温度 ^{※4}				-10~+100℃(凍結・気泡なきこと)、蒸気洗浄時は接液部のみ120℃以下で1時間まで					
使用圧力範囲				標準、防爆タイプ【型式の末尾がG:2.0MPa、型式の末尾がH:1MPa】 サニタリタイプ:1MPa					
ダンピング時定数(応答時間)				0.5~200s(設定レンジ(スパン)の63.2%応答までの時間、初期値:5s)					
流量単位				体積流量単位、質量流量単位、時間単位、から選択 体積流量単位:m ³ 、L、cm ³ 、質量流量単位:t、kg、g、時間単位:d、h、min、s					
積算データ記憶周期				22秒ごとにメモリに書き込み					
メモリバックアップ				EEPROM(データ記憶期間:10年以上、データ書き換え可能回数:100万回以上)					
表示方式				LCD表示(主表示:8桁、副表示:8桁)					
2線式アナログ出力				DC 4~20mA、最大負荷抵抗は別図参照					
積算パルス出力 ^{※5}				トランジスタオープンコレクタ出力:最大(DC30V、100mA)まで印加可能、ただしトランジスタ定格は最大1W ON時残留電圧2.7V(代表例)、スパン周波数:0.0001~200Hz、パルス幅:1~1000ms					
電源電圧				DC 21.6~42V 最大負荷抵抗は別図(抵抗仕様)参照					
消費電力(消費電流)				4~20mA					
保護構造				IP67					
避雷機能				12kV(バリスタ内蔵)					
接地				D種接地(接地抵抗100Ω以下)					
耐環境性	使用周囲温度			-20~+60℃(氷結しないこと)					
	使用周囲湿度			10~85%RH					
	耐振動			10~55Hz 複振幅0.15mm X,Y,Z,各方向2時間					
材質	接液部			標準・防爆タイプ[ライニング:アルミナセラミック、接液リング:SUS316L、Oリング:フッ素ゴム] サニタリタイプ[ライニング:アルミナセラミック、ヘルメットアダプタ:SUS304、パッキン:EPDM(黒)]					
	接液部以外(共通)			フランジ・通水部ケース:SCS13、表示部ケース:アルミニウム合金(ADC12)、 表示カバー:強化ガラス(厚さ11mm)、操作ボタン:アルミ(A5052)、各部Oリング:フッ素ゴム					
	接液部以外(個別)			標準タイプ[ケーブルグランド:66ナイロン、ケーブル挿入口カバー:66ナイロン] 防爆タイプ[ケーブルグランド:真鍮(ニッケルメッキ)、ケーブル挿入口カバー:アルミニウム合金(ADC12)] サニタリタイプ[ケーブルグランド:66ナイロン、ケーブル挿入口カバー:66ナイロン、ボルト・ナット:SUS]					
付属品				取扱説明書、ケーブルグランド、検査成績書					

※1 口径15A、25A、40Aに関しては、JIS20KとJIS10Kはフランジの厚みの違いだけです。JIS10Kのフランジにも取り付け可能です。 ※2 上限値は0.3~10m/sの範囲で任意に設定できます。
設定した測定範囲の3%以下は、ローフローカット(ゼロカット)されています。 ※3 当社試験設備において、単位時間あたりの積算値に規定 ※4 液体温度変化については、8ページのグラフを参照してください。 ※5 積算パルスの出力は流量計本体の設定により、ウィンドウ設定出力、積算設定出力、逆流エラー出力に切り換えられます。(注) CEマーキングの適合は、標準タイプのみにあります。



電極非接液（電極レス）を省電力2線式で実現、
フランジ配管タイプの「高強度」電磁流量計



業界初 電極非接液 + 2線式

電極レス

圧力損失ゼロ

配管強度



口径15A
FD-UH15G

口径25A
FD-UH25G

口径40A
FD-UH40G

口径50A
FD-UH50G/H

表示分離やPLC接続に
便利な表示付き変換器も
ラインナップ



表示付変換器
DIN レールタイプ
FD-UA1

表示付変換器
パネルタイプ
FD-UA5

「ちなみに、一般的な流量センサでは？」

浮き子式



分解してメンテナンス

冷却水に含まれるサビで全く見えません。

羽根車式



軸やせやゴミ詰まりでスムーズに動かなくなります。

4. 温泉分析結果



甲第3892号

温泉分析書

(鉱泉分析試験による分析成績)

1. 分析申請者 住所 東京都渋谷区笹塚一丁目21番17号
氏名 櫻護謨株式会社
代表取締役社長 [REDACTED]
2. 源泉名及び湧出地 源泉名 ささ1200の湯
湧出地 東京都渋谷区笹塚一丁目49番11
採水場所 源泉
3. 湧出地における調査及び試験成績
(イ) 調査及び試験者 公益財団法人 中央温泉研究所 [REDACTED]
(ロ) 調査及び試験年月日 令和7年7月14日
(ハ) 泉温 30.3℃(調査時における気温 26℃)
(ニ) 湧出量 240 L/min(掘削・動力揚湯)
(ホ) 知覚的試験 褐色澄明塩味僅微鉱物油臭,ガス発生あり
(ヘ) pH値 7.9
(ト) 電気伝導率 1.21 S/m(25℃)
(チ) ラドン(Rn) — Bq/kg(— $\times 10^{-10}$ Ci/kg, — マッヘ単位)
4. 試験室における試験成績
(イ) 試験者 公益財団法人 中央温泉研究所 [REDACTED]
(ロ) 分析終了年月日 令和7年8月1日
(ハ) 知覚的試験 褐色澄明塩味殆ど無臭(試料採取8時間後)
(ニ) 密度 1.004 g/cm³(20℃/4℃)
(ホ) pH値 8.11
(ヘ) 蒸発残留物 7.196 g/kg (110℃)
5. 試料1kg中の成分・分量及び組成

(イ) 陽イオン

成分	ミigram	ミハル	ミハル%
ナトリウムイオン(Na ⁺)	2745	119.4	93.25
カリウムイオン(K ⁺)	75.7	1.94	1.52
アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺)	38.7	2.15	1.68
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	30.9	2.54	1.98
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	37.7	1.88	1.47
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	0.5	0.06	0.05
鉄(II)イオン(Fe ²⁺)	2.0	0.07	0.05
陽イオン計	2931	128.0	100

(ロ) 陰イオン

成分	ミigram	ミハル	ミハル%
ふっ化物イオン(F ⁻)	0.2	0.01	0.01
塩化物イオン(Cl ⁻)	3452	97.37	78.81
臭化物イオン(Br ⁻)	34.7	0.43	0.35
よう化物イオン(I ⁻)	7.1	0.06	0.05
硫化水素イオン(HS ⁻)	<0.4	—	—
チオ硫酸イオン(S ₂ O ₃ ²⁻)	<0.1	—	—
硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	0.4	0.01	0.01
硝酸イオン(NO ₃ ⁻)	0.2	0.00	0.00
リン酸水素イオン(HPO ₄ ²⁻)	4.4	0.09	0.07
炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	1551	25.42	20.57
炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	4.8	0.16	0.13
陰イオン計	5055	123.6	100

(ハ) 遊離成分

非解離成分	ミigram	ミモル
メタけい酸(H ₂ SiO ₃)	103.2	1.32
メタほう酸(HBO ₂)	5.1	0.12
腐植質	88.0	—
非解離成分計	196.3	1.44

溶存ガス成分	ミigram	ミモル
遊離二酸化炭素(CO ₂)	77.9	1.77
遊離硫化水素(H ₂ S)	<0.1	—
溶存ガス成分計	77.9	1.77

溶存物質計(ガス性のものを除く) 8.182 g

成分総計 8.260 g

(ニ) その他微量成分 (mg)

総水銀(Hg)	0.0005	未満
マンガン(Mn)	0.05	未満
銅(Cu)	0.05	未満
鉛(Pb)	0.05	未満

総ひ素(As)	0.005	未満
亜鉛(Zn)	0.02	未満
カドミウム(Cd)	0.01	未満

6. 泉質 ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩温泉(等張性・弱アルカリ性・低温泉)
7. 禁忌症、適応症等 温泉分析書別表中5に記載する。
令和7年8月12日

登録番号 14 健地衛
東京都北区滝野川三丁目
公益財団法人 中央温泉
理事長 [REDACTED]



甲第3892号

温泉分析書別表

1. 源 泉 名 ささ1200の湯
2. 湧 出 地 東京都渋谷区笹塚一丁目49番11
3. 温 泉 分 析 申 請 者 東京都渋谷区笹塚一丁目21番17号
櫻護護株式会社
代表取締役社長 [REDACTED]
4. 泉 質 ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩温泉(等張性・弱アルカリ性・低温泉)
5. 分析結果による療養泉分類に基づく禁忌症、適応症等は環境省自然環境局長通知(平成26年7月1日)環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

【浴用の禁忌症】

- 一 般 的 禁 忌 症 病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性的病気の急性増悪期。

泉 質 別 禁 忌 症 該当項目なし。

【浴用の適応症】

- 一 般 的 適 応 症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害など)、病後回復期、疲労回復、健康増進。

泉 質 別 適 応 症 きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症。

入浴上の注意

浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア. 入浴前の注意

- (ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- (イ) 過度の疲労時には身体を休めること。
- (ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。
- (エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
- (オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- (カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ. 入浴方法

- (ア) 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。
- (イ) 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
- (ウ) 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。
- (エ) 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ. 入浴中の注意

- (ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- (イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- (ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ. 入浴後の注意

- (ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。)。
- (イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ. 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ. その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

(注)この別表は温泉法第18条による掲示に必要な参考資料となるものである。

令和7年8月12日

登 録 番 号 14 健 地 衛
東 京 都 北 区 滝 野 川 三 丁 目
公 益 財 団 法 人 中 央 温 泉
理 事 長 [REDACTED]

5. 可燃性天然ガスの測定結果



気第460号

可燃性天然ガス測定結果報告書 (温泉法施行規則第6条の6第1項に係る測定調査)

1. 分析申請者 住所 東京都渋谷区笹塚一丁目21番17号
氏名 櫻護膜株式会社 取締役社長
2. 湧出地及び源泉名 湧出地 東京都渋谷区笹塚一丁目49番11
源泉名 ささ1200の湯
3. 源泉の温泉分析書 (イ) 温泉分析書発行年月日 令和7年8月12日
(ロ) 温泉分析書整理番号 甲第3892号
(ハ) 分析機関名 公益財団法人中央温泉研究所 (登録番号:14健地衛第1号)

4. 現地における調査及び試験成績

- (イ) 調査及び試験者 公益財団法人中央温泉研究所
- (ロ) 調査及び試験年月日 令和7年7月14日
- (ハ) 泉温 30.3℃ (気温26℃)
- (ニ) 湧出量 240リットル/分
- (ホ) ガス水比 ガス:水=1:1.1
- (ヘ) 揚湯方法

<input type="checkbox"/>	自然湧出
<input type="checkbox"/>	掘削自噴
<input checked="" type="checkbox"/>	掘削動力揚湯(水中ポンプ)
<input type="checkbox"/>	掘削動力揚湯(エアリフト)
<input type="checkbox"/>	その他の掘削動力揚湯()

(ト) 採用した測定方法

測定方法	基準値
<input checked="" type="checkbox"/> 水上置換法	50 %LEL
<input type="checkbox"/> 水上置換-ガスクロマトグラフ法	50 %LEL
<input type="checkbox"/> 槽内空気測定法	2.5 vol.%
<input type="checkbox"/> ヘッドスペース法	25 %LEL
<input type="checkbox"/> 予備的空気濃度測定	5 %LEL
<input type="checkbox"/> 予備的空気濃度測定	—
水上置換法、槽内空気測定法ができなかった理由:	

(リ) 測定場所

<input checked="" type="checkbox"/>	温泉井戸
<input type="checkbox"/>	温泉井戸に最も近い開口部
<input type="checkbox"/>	()
<input type="checkbox"/>	その他(測定場所:
<input type="checkbox"/>	選定の理由:

(チ) 測定機器のセンサ方式

<input checked="" type="checkbox"/>	接触燃焼式可燃性ガスセンサ
<input type="checkbox"/>	(機種:新コスモス電機株式会社製XP-3110)
<input type="checkbox"/>	その他のセンサ()
<input type="checkbox"/>	ガスクロマトグラフ(検出器:)

(ス) 測定できない理由

<input type="checkbox"/>	
--------------------------	--

(ル) 現地の状況

測定の実施状況を現した写真等



(ヲ) 測定値: 水上置換法 100 %LEL以上 (基準値 50 %LEL)

(ワ) 所見

(ヲ) 以外の2回の測定値はいずれも100[%LEL]以上であった。
本温泉は相当量の可燃性ガスを含んでいるので、温泉採取の許可申請が必要である。
また、温泉付随ガスが発生しているため、貯湯槽等密閉構造となる場所では酸欠事故にも注意すること。
別紙に本温泉付随ガスのガスクロマトグラフ分析結果を示す。

令和7年8月12日

登録番号 14 健地衛
東京都北区滝野川三丁目5
公益財団法人 中央温泉
理事長

可燃性ガス測定結果により温泉動力の装置許可後、法令に基づき温泉採取場所に立入禁止区域を設け、ガス分離設備等を設置。温泉採取許可を申請予定



気第 460 号別紙

温泉付随ガス分析結果

源泉名 : ささ 1 2 0 0 の湯
湧出地 : 東京都渋谷区笹塚一丁目 49 番 11
採取年月日 : 令和 7 年 7 月 14 日
ガスの状態 : バブルガス
分析法 : ガスクロマトグラフ法 (JIS K 2301)
検出器 : O₂、N₂ 及び CO₂ ; 熱伝導度型検出器 (TCD) 、
CH₄ ~ C₆H₁₄ ; 水素炎イオン化検出器 (FID)

成分名	濃度 [vol. %]	空気補正濃度 [vol. %]
酸素 (O ₂)	0.30	0
窒素 (N ₂)	2.37	1.27
二酸化炭素 (CO ₂)	1.55	1.57
メタン (CH ₄)	95.38	96.74
エタン (C ₂ H ₆)	0.226	0.229
プロパン (C ₃ H ₈)	0.107	0.109
ブタン (C ₄ H ₁₀)	0.055	0.056
ペンタン (C ₅ H ₁₂)	0.015	0.015
ヘキサン (C ₆ H ₁₄)	0.002	0.002
計	100	100

気体比重 : 0.58

令和 7 年 8 月 12 日

登録番号 14 健地
東京都北区滝野川三丁目
公益財団法人 中央温
理 事 長

渋谷区笹塚一丁目の温泉動力の装置に係る許可基準の適合状況

□許可の基準（温泉法第4条第1項各号）

- ・温泉のゆう出量、温度又は成分に影響を及ぼさないこと（第1号）
- ・公益を害するおそれがないこと（第3号）

基準		本申請の内容
①温泉に係る地盤沈下防止対策及び適正利用について （平成17年1月17日東京都自然環境保全審議会答申） 制限距離以上を既存源泉からとること。制限距離以内に源泉が存在する場合は、揚湯量の合計が②に示される量以下であること。		制限距離：1000 m 制限距離内に既存源泉あり
②温泉動力の装置の許可に係る審査基準 （平成10年7月1日東京都告示第724号） ・吐出口断面積：21 cm ² 以下 ・揚湯量：150 m ³ /日以下		吐出口断面積：13.58 cm ² 制限距離内の揚湯量合計 148.14 m ³ /日 (a+b) 〔申請揚湯量 38.14 m ³ /日・a 既存源泉2か所の揚湯量合計 110 m ³ /日（合計）・b〕
③温泉掘削・動力許可に関わる井戸・湧水の取扱いについて （平成20年9月9日東京都自然環境保全審議会温泉部会決定）		
ア	配慮を要する井戸への影響： 周辺1000m以内の水道水源井戸又は水道未給水地域における生活の用に供する井戸	配慮を要する井戸なし
イ	配慮を要する湧水への影響： 周辺1000m以内で、重要な役割を持つとして区市町村が指定又は判断する湧水	湧水あり （渋谷区内1か所）
<周辺自治体からの申請に対する地下水保全に関する意見> 杉並区：地下水の涵養等の点から温泉水の揚水量について配慮願いたい。 渋谷区：健全な水循環系や地下水環境を著しく乱すことがないよう配慮されたい。 影響範囲の湧水個所について、土地の所有者や使用者などに対して情報提供を行うよう配慮されたい。 中野区・世田谷区：意見なし		

温泉に係る地盤沈下防止対策及び適正利用について

平成17年1月17日 東京都自然環境保全審議会 答申

1 温泉の許可基準

温泉動力の装置の許可に係る審査基準（平成10年7月1日付東京都告示第724号）（以下「審査基準」という。）の指定地域において、温泉を掘削する場合は、地盤沈下の防止及び源泉間の相互影響への配慮の観点から、既存源泉と新規源泉の深度を比較して深い方の深度に対応した下記の制限距離以上を既存源泉からとること。

掘削深度	制限距離
500mを超える	1,000m
200mを超え500m以下	500m
200m以下	200m

ただし、既存源泉がこれらの制限距離以内に存在する状況においても、既存源泉と新規源泉の揚湯量の合計が、審査基準に規定された量以下であることを確認できる書面を提出できる場合はこの限りでない。

2 個人利用に対する指導基準

（1）集合住宅での各戸給湯利用

源泉の一日あたりの揚湯量が、審査基準に規定された量を超えない範囲において、一世帯の一日あたりの揚湯量を0.5立方メートル以下とすること。

（2）戸建住宅での給湯利用

一日あたりの揚湯量を10立方メートル以下とし、浴槽容量及び利用実態に応じた適正な揚湯量とすること。

3 温泉に関する情報の収集及び適正管理の検討

（1）温泉を掘削しようとする者に対して、掘削地点の地質及び地下水に関する、更なる調査の実施と結果の報告を求めること。

（2）報告を受けた資料を整理、解析し、温泉の適正管理に関する検討を継続して行うこと。

温泉動力の装置の許可に係る審査基準

平成10年 7月 1日 (東京都告示第 724号)
 最終改正 平成20年10月24日 (東京都告示第1339号)

地盤沈下防止の観点から、温泉法(昭和23年法律第125号)第11条第3項により準用する同法第4条第1項の規定に基づく動力装置の許可に係る審査基準を次のとおり定める。

指定地域		吐出口断面積	一日の揚湯量
1	墨田区 江東区 北区 荒川区 板橋区 足立区 葛飾区 江戸川区	6平方センチメートル 以下	50立方メートル 以下
2	東京都の区域のうち、1に掲げる区域、八王子市の一部(一般国道411号線との交点以北の都道檜原あきる野線、その交点から一般国道20号線との交点(八王子市高尾町)までの都道八王子あきる野線、その交点から都道八王子町田線との交点までの一般国道20号線及びその交点以南の都道八王子町田線以西の区域)、青梅市、あきる野市、西多摩郡日の出町、同郡檜原村、同郡奥多摩町及び島しょ地区を除く区域	21平方センチメートル 以下	150立方メートル 以下

備考 揚湯の状況について、水量測定器及び水位計により確認できること。

温泉掘削・動力許可に関わる井戸・湧水の取扱いについて

平成20年9月9日 東京都自然環境保全審議会温泉部会決定

東京都自然環境保全審議会において審査を行う際、申請のあった地点の周囲の状況についての情報として活用するための井戸・湧水の取扱いについて、次のとおり整理する。

1 基本的な考え方

井戸、湧水があることについては、直ちに温泉法で規定されている温泉掘削が公益を害するおそれがあると認めることはできず、許可基準には抵触しない。

井戸、湧水の存在については、審査の参考として資料に記載するものである。

申請者が、許可申請時に周辺状況として必要な井戸、湧水を自ら把握するよう指導しているが、行政としても、申請者の内容を確認する上で、関係機関に照会する。

2 井戸

(1) 配慮を要する井戸

- ・申請地点の周囲1000m内にある水道事業体の水源井戸
- ・申請地点の周囲1000m内にある水道の供給を受けていない地域(未給水地域)内の生活の用に供する井戸

(2) 井戸の把握方法

申請地点に水道を供給する水道事業体に対し、文書で照会し、回答を求める。

3 湧水

(1) 配慮を要する湧水

- ・申請地点の周囲1000m内にある地域の環境の保全のため重要な役割をもつ湧水として、区市町村が地域指定又は判断している湧水

(2) 湧水の把握方法

配慮を要する湧水の有無について、区市町村に対し文書で照会し、回答を求める。

4 配慮を要する井戸、湧水への対応

(1) 温泉部会

申請された温泉掘削・動力許可が、配慮を要する井戸、湧水に対し影響を及ぼすおそれがあるか検討する。



(2) 申請者への指導

温泉部会の検討結果を踏まえ、申請者に対して、配慮を要する井戸、湧水の管理者等と温泉掘削・動力設置の情報及び井戸、湧水に対する影響の把握について話し合うよう指導し、その結果について報告を求める。

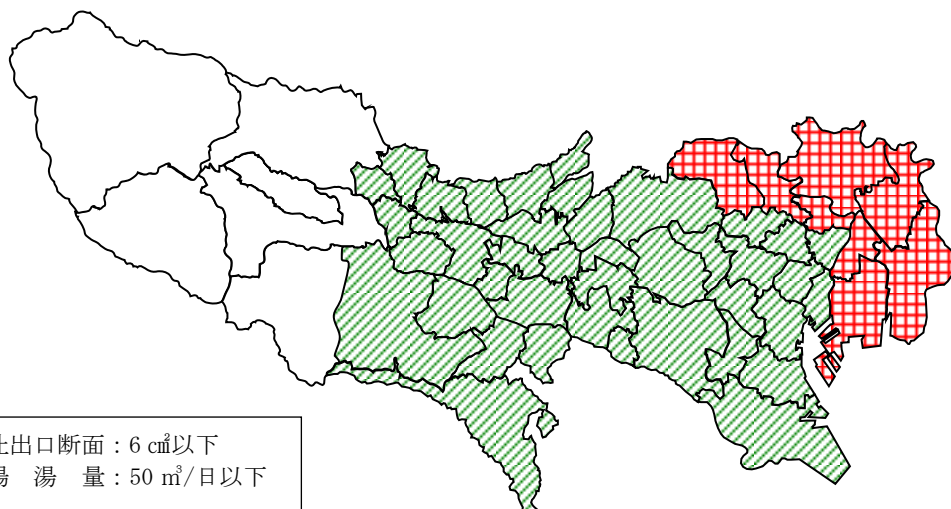
東京都における温泉の許可基準に係る指定地域




- 1 可燃性天然ガスの噴出のおそれがある場合の地域（平成 20 年 10 月 1 日告示 1223 号）
掘削深度に制限距離を適用する地域（平成 17 年 1 月 17 日 東京都自然環境保全審議会答申）



	可燃性天然ガスの噴出のおそれがある場合の地域、制限距離規制適用地域		規制なし（島しょ含む）
<p>東京都の区域のうち、八王子市の一部（一般国道 411 号線との交点以北の都道檜原あきる野線、その交点から一般国道 20 号線との交点（八王子市高尾町）までの都道八王子あきる野線、その交点から都道八王子町田線との交点までの一般国道 20 号線及びその交点以南の都道八王子町田線以西の区域）、青梅市、あきる野市、西多摩郡日の出町、同郡檜原村、同郡奥多摩町及び島しょ地区を除く区</p>			

- 2 温泉動力の装置の許可に係る審査基準（平成 10 年 7 月 1 日 告示第 724 号）



	吐出口断面：6 cm^2 以下 揚湯量：50 $\text{m}^3/\text{日}$ 以下
	吐出口断面：21 cm^2 以下 揚湯量：150 $\text{m}^3/\text{日}$ 以下
	規制なし（島しょも含む）